

## 【徳島県阿南市】

### 1人1台端末の利活用に係る計画

#### 1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

令和3年の中央教育審議会答申「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～」に示されている「個別最適な学び」及び「協働的な学び」を一体的に充実させ、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を行っていくことは、本市が令和7年3月に策定した「阿南市教育振興基本計画」を実現するためには必要不可欠なことである。1人1台端末の導入により、1人ひとりの力が自らの力に応じた学習を主体的に進めると共に、デジタルにより思考の可視化や共有により今までにはない発想での授業作りが行っていく必要がある。

一方本市には、国立阿南工業高等専門学校があり、以前より様々な連携を行ってきている。1人1台端末により、児童生徒が個々にプログラミングできる環境となったことと、高専のプログラミング人材を多く育てていきたいという方針がうまくかみ合って、プログラミング教育の推進に強い支援をしてもらっている。そこで、本市では、プログラミング教育により、論理的思考力、問題解決能力を育て、地域社会に貢献できる理系人材を育てていくことを目標としている。

#### 2. GIGA第1期の総括

令和3年度に1人1台端末としてiPadを導入し、令和4年度には各教室にプロジェクター又は大型電子黒板等を配置した。さらに令和6年度には、指導者用デジタル教科書を小中学校ともほぼ全教科購入した。授業ではそれを活用することにより、子供の集中力を高めている。さらに、学習者用デジタル教科書も外国語は市内全小中学校で活用されていた。また、令和4年度「学びの保障・充実のためのための学習者用デジタル教科書実証事業」で学習者用デジタル教科書を使用した学校では、盛んに活用されていたようで、事業の終了に伴い使用できなくなることを非常に悔やむ声が聞こえてきた。

一方、学校での活用の促進のために、令和4年度には2人であったICT支援員を令和5年度には2人増員し、4人体制とした。このことにより、月2回程度はICT支援員が各校を巡回できるようになった。

当初は、ICT機器に対する苦手意識を持っていた教師も、ICT支援員の支援を受けやすくなったり、積極的に取り入れている教員に学んだりすることによって、その有効性と便利さを実感し、積極的に活用できるようになってきている。

現時点での大きな課題は次の3点である。

##### ① 通信環境

令和6年度にネットワークアセスメント事業により、ネットワークの状態を調査した結果、全ての学校において文科省の基準値を下回っていた。原因は、現在調査中であるが、学校によっては、学年が一斉に検索をかけただけでスムーズに結果を得ることができないということも起こっており、早急に改善をしていきたいと考えている。

## ② 情報モラル

子どもたちのタブレット端末の使用頻度が高くなるにつれて、学習外での使用事例も増えてきている。ICT 支援員が定期的に端末を確認し、よくない使い方が見られた場合は担任等に連絡し、指導を行うようにしている。今後も増加の可能性は十分にあると思われるので、適切な使用についての指導を徹底していく必要がある。

## ③ キーボード

タブレット端末と共に購入したキーボードが使いにくいものであったために、活用率が十分に上がっているとは言いがたい。学習指導要領に示されているタイピングスキル能力にはほど遠いのが現状である。今後は、学校への支援をより一層強めるとともに、次期端末の更新の際には、より使いやすいものを十分に吟味して購入を行いたいと考えている。

## 3. 1人1台端末の利活用方策

### ① 「1人1台端末の積極的活用」

ICT 支援員を月2回程度配置しているので、学校にその積極的な活用、特に授業支援や研修などでの活用を促し、より効果的な活用方法をそれぞれの教員が見いだせるようにしていく。また、それぞれの学校には、デジタルならではの活用を行っていたり、学習ログを有効に活用したりしている事例があるので、それらを広く市内に周知し、市内全体の教師の活用能力を一層高めていく。

本市は、LINE みらい財団の支援を得て、情報モラル教育のためのデジタルテキスト「GIGA ワークブック」を小学校1～3年生版、4～6年生版、中学校版と策定して。これの一層の活用を促し、高度情報社会の中で正しく判断し、必要な情報を適切に取捨選択し生かすことができる力を持った人材を育てていく。

本市では、国立阿南工業高等専門学校の支援により、プログラミング教育及び教員の ICT 活用能力の向上を進めている。教員研修として、年2回、初歩又は中級クラスのプログラミング能力向上及び ICT 機器活用能力向上クラス設定し、選択授業できるようにしてきた。このことにより、教員のプログラミング力や Teams, Forms などの活用能力も向上してきている。

また、高専が学校からの要請により出前授業を行うなど支援をしてくれているおかげで、子供たちのプログラミングへの意欲も高まり、能力も向上してきているようである。

### ② 「個別最適・協働的な学びの充実」

本市では、AIドリルを導入している。また、令和7年度からは一部の学年で AIドリルと CBT が繋がりがより一層個別最適な学習が行えるようになる予定である。また、「協働的な学び」の実現に向けた授業作りに関しては、iPad が標準で搭載しているアップルクラスルームやアップルスクールワーク、フリーボード、或いは Microsoft 社の Teams、市が購入しているアプリなどの活用はかなり進んできている。令和6年度には、アプリの会社からの要請により、全国規模のタブレット端末を使った協働的な学習での授業研究会を行った。そこで、タブレット端末を使用することによって、子供たちは授業に意欲的になることや、互いの考えを瞬時に可視化し共有することができるので、発問の工夫次第ではより深い次元での授業作りも行える可能性があるということに参加教員が実感したようであった。今後も学校との連携により、タブレット端末を有効に利用した「主体的で対話的な深い学び」の学習の実現のための研究を行っていきたいと考えている。

### ③ 学びの保障

本市では、令和4年度より、学校からの要望により、不登校対策としてタブレット端末による授業ライブ配信を数校で行ってきている。今後もこの取り組みは継続して行う予定であるが、対象となる子供によっては、授業配信が心の負担となることもあるので、学校との連携を十分にとりつつ、その子の特性に応じた配信、支援を行っていきたい。

また、本市の不登校児童生徒支援学級でもタブレット端末が使えるように環境を整備し、必要に応じて学級の支援員に貸し出しも行っている。今後とも継続して行っていく予定である。

以上の取り組みを実施するため、1人1台タブレット端末は必要不可欠である。GIGA 第2期において、1人1台タブレット端末の更新を行い、魅力ある学習環境の充実を図っていく。